

+ 三月の雨

小林守城

忘れずに叢生そうせいした水仙

手足はいまだ 縮かんではいても

枯れ枝に鳥がきて見ている

下草の芽立ちを見ている

福島から渡ってきたのか

鳥たちよ その高みから

蠢うごいているわたしたちが見えるか

嘯うそぶいてもすぐに割れてしまう

一人ひとりの街角で

なんどでも循環・共生の

お札を売ろう

三月の氷雨痛く食い込み

やがてふるさとは

さつきの季節

よみがえれ

名もない胎土から大盃おおさかずき

いまや汚染の もんぺを穿いて

神さびて情けましたる寒の雌猫ねこ

今年是一段と狂おしい

ねぶり流し

小林守城

つよく生きるというのは

撓しなるということ

竿灯をみていると

身も心も

しなり返してみたくなる

二胡の調べも風の盆踊りも

街角に撓しなるということだ

嵐や実りの重さに

耐えるということは

たおやかに

ねぶり流しをすること

地面をしつかりとらえる

足腰を見よ

膝を見よ

柔らかかに

手のひらを支える腕と肩

みんな撓って

折れることはない